

公民館報

坂城

平成31年
2019.3.22
No.388

発行／坂城町公民館 発行人／清水 守 編集／広報部 印刷所／滝沢印刷（同）
〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2468 TEL.0268-82-2069 FAX.0268-82-8722



❖主な内容❖

- ふるさと探訪PART103 2～4 P
- 更埴地区短詩型文学祭入賞作品 4～5 P
- 行事から、500字リレートーク 6～7 P
- 4月からの講座参加者募集、館説 開畝 8 P

**分館対抗球技大会
(スマイルボウリング)開催!!**
(関連記事7P)

村上地区を通った中世の道(その5)

今回のふるさと探訪は、384号から掲載している中世の街道の研究を長年続けた浅野井坦さんの寄稿です。



☆大草堤防・上河原の舟着場

○網掛上河原の舟着場
この舟着場の存在について地元では一部を除いて知らない人が多い。網掛宿の西端、横町を通った道は寺沢川をこえ、水害に合わない山裾を通って六ヶ郷用水に達する。そこから用水沿いに上り、水神祠を通って二番樋まで来る。その左側辺が舟着場の地である。

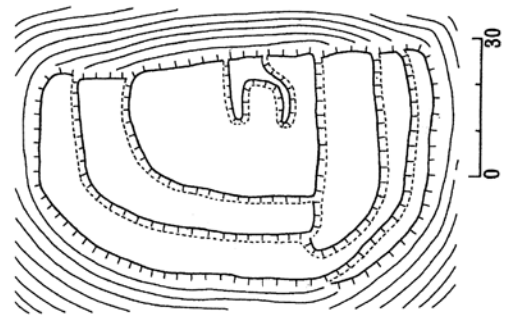
昔は堤防がなかったので、ここに水除けの伊勢社を祀り「上の伊勢宮」とよばれていた。ここが流失すると網掛全体が大被害となる。水除けの伊勢宮信仰は、戦国時代には外宮の御師によって定着していた。江戸時代、中野陣屋代

官は西の山から石を切り出させ、堅固な堤防を築いたが、今も残っていて大草堤防と呼ばれている。そこから対岸の斜め下方に、石組みが築かれていたと川漁師の口碑に残るが、今はあとかたもない。

二番樋の東、明治の中ごろは千曲のかなり大きい分流が流れていたと伝える。ここから上は急崖の連続で、道もなく通れなかった。そこで二番樋から崖の上を通って、小網入口の小祠までいく。昔は馬も通れるほどの道幅だったという。県道の拡幅工事で崖を切りくずしたため、残っていた道形は失われたが、小網から上はまだ少し残っている。道は小網峠、それより後に開かれたと思われる南峠を経て、室賀の中心部の中組に通じる。

この道戦国時代には、すでに機能していた。室賀と小網の境、摺鉢山頂（標高八八〇m）に伊勢崎城がある。この城は道を警戒するため設けたものである。城に石垣はなく、土壇積みの単郭である。

南の三頭山（みづとうさん）中腹にも跡部城がある。古記録によると三間（五、四m）四方の単郭で、四方石垣とある。したがって伊勢崎城より後のものであろう。あるいは南峠の道筋を警戒した



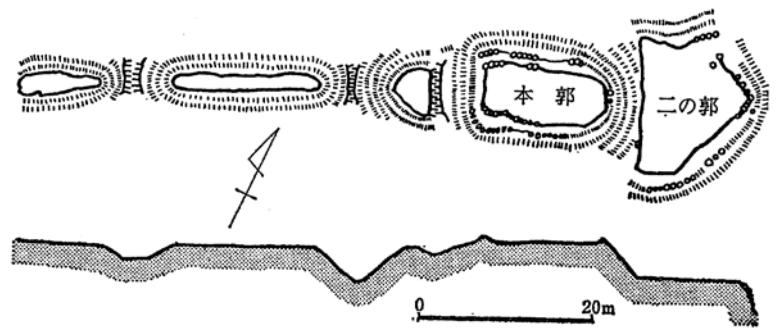
☆伊勢崎城図

のだろうか。

網掛の狐落城は、本郭と二の郭には石垣がめぐらされ、南北の壁には犬走りともいふべきテラス状の構築があつて、二段の石垣積みとなっている。天文二十二年（一五五三）の村上義清没落当時の手法ではなく、その後の政治情勢の変更などで再構築されたとみるべきで、この道筋の警戒の意味もあるのではなかろうか。

室町時代の末ごろになると、室賀の北方から現在の上五明に集落が移ってきたという。またこのころになると、千曲川は流れ筋が定まってきた、現行のようになってきたのではなかろうか。

屋代政国は実子を戦いで失った。



☆狐落城城図

そのため弟で他家を継いでいた室賀満正の子、秀正を養子とし家を継がせた。政国・秀正父子は約三十年にわたり、武田氏に忠勤を励んだ。領地は更埴両郡の中央部大半に達していた。屋代と室賀との交流は盛んだったに違いないし、重い荷物の運搬は上河原の舟着場が使われたのだろう。御厨社の舟着場から室賀までの距離は上河原からの方が短かったのである。

政国は天正六年（一五七八）上山

田で亡くなるが、そのころ秀正は武田勝頼配下で、丸子城将（静岡市）だった。同九年三月武田方の高天神落城前に、徳川勢に城を開け渡し退去している。のちに秀正は家康の配下となるが、そのきっかけはこのときの無血開城にあったのではなかろうか。

天正十年（一五八二）八月、北信地方を平定した上杉景勝は、村上義清の子景国を海津城将に任じて川中島四郡（更級・埴科・高井・水内）を任せ、屋代秀正を副将にして二の



☆室賀氏の墓（室賀青松寺裏）

曲輪に置いた。秀正は景勝に重用され、更埴地方の桑原・稲荷山を除く大半が所領となつて、武田時代よりさらに拡大した。

天正十二年（一五八四）三月、秀正は家康に味方するため海津を退去し荒砥城に入った。しかし景勝と戦うことなく、まもなくそこを出たが、室賀の方へ行つたのではなからうか。このとき、またもや塩崎氏も同調し、桑原の佐野山城にこもつた。秀正は景勝のもとで、麻績や更埴両郡南部を防衛範囲としていたがそれに接する地は、いずれも家康の勢力下にあつて、その誘いもかなりあつたにちがいない。

景国は城将を止めさせられ越後へ連行されたが、上杉一門の扱ひだったので身の処分はなく、以後村上を名のらず山浦姓を称した。村上氏は屋代氏により、二度も回復不能の打撃を被つたわけで、これが戦国時代というのであろうか。これら一連の事件によって、当地から室賀への道筋は多くの将士が行き来したにちがいない。

同年五月、上杉景勝の兵が更級郡南部に侵入し、秀正はこれと戦つて、一〇〇人以上を討ちとつた。家康は直属の大久保忠世に手紙を送り、今

回味方して戦つた秀正・室賀氏・塩崎氏の身上を考慮すること、秀正と室賀氏の二人には景勝領との境目に築城させることなどを命じている。この築城地は不明であるが、たぶん村上系の山城とは様式の異なる狐落城ではなからうか。秀正の領地は新たに景勝方となつた真田昌幸に与えられた。

秀正はそのごも家康に忠勤を励み、慶長十九年（一六一四）甲斐で五〇〇〇石の地を与えられ、元和九年（一六二三）六十六歳で亡くなつてゐる。秀正の子は寛永十五年（二六三八）一万石の大名となるが、その孫の代に一揆で領地を没収された。しかし名家というので、のちに三〇〇〇石の旗本となつた。室賀氏も七〇〇〇石を得て、共に幕府が倒れるまで続いた。

上河原の舟着場は、江戸時代の寛保二年（一七四二）戊の満水の大洪水により、そこにあつた小集落は流され、助かつた人どうしは夫婦の組み替えなどして他所へ散つていったと伝える。そのごは下流に網掛舟渡が置かれ、昭和十年頃までであつたという。

（網掛 浅野井 坦）

第二十三回更埴地区短詩型文学祭入賞作品

去る11月17日（土）、更埴公民館運営協議会（坂城町と千曲市で構成）主催の文学祭表彰式が、千曲市屋代公民館で開催されました。坂城町の入賞作品を紹介します。敬称は略させていただきます。

一般の部

【短歌の部】

◆更埴公民館運営協議会長賞

巢立ちゆく百舌の子枝へ飛びたるを
幼は告げくる声弾ませて

横田 徳子（網掛）

◆佳作

満州で新妻撃たれ葬るを
語り継げぬも昭和の歴史

柳生 悠

◆入選

腰痛めご先祖さまにご馳走が
無きこと詫びて送り火を焚く

細谷智恵子（網掛）

何回もの就職試験乗り越えて
さわやかな声孫からの電話

塩野入はる江（荻屋原）

【俳句の部】

◆更埴地区短詩型文学祭大賞

寛解の自画像おほき賀状受く

永井 浩（大宮）

◆佳作

母一人待つ古里や盆の月

竹内 文（網掛）

【川柳の部】

◆更埴公民館運営協議会長賞

今日の無事感謝で閉じる日記帳
西澤ひろ子（北日名）

◆佳作

気転きく話術が救う窮地の場
小川 碧（中之条）

◆入選

メルヘンで母が清める錆た夢
小宮山洋子（中之条）

【現代詩の部】

◆更埴公民館運営協議会長賞

レモンの思い出
小宮山洋子（中之条）

少年と少女が歩いて行く
大きな宮の裏通り

少年は少女より背が高く
道路の右側をきりつと歩く

左側の少女は遅れぎみに小足で歩く
二人は何も語らず顔も見ない

少年がつと立ち止まり振り返る
「じゃあまた」

遅れたままの少女に手を上げて微笑
んだ

別れ道だった

少女はぎこちなく微笑み
細い道へうつむいて歩き始めた最後
の日

真上の陽がやさしく二人を見守って
いた

◆佳作

着物をとく

松澤 瑞枝(込山)

母と義母の着物をとく

今ちよつとしたブームの和服のり
フォーム
よみがえる着物にわくわくする私
ときながら母たちの歴史を思う

さらさらとした手ざわりの義母の着
物は
細かな柄模様で地味な色あいのもの
が多い
キユツと糸を引く スーとぬけるこ
とも
引つかかって動かぬことも糸だけが
切れることも

一枚の平になった布の裏面には
丁寧縫いつけられた小さなあて布が
リフォームされた 若く華やかな時
の着物

義母は町医者娘 結婚した人は青
年将校
敗戦後は山に入り荒地を耕し
無一物になりながら四人の子どもを
育てた
自分のための新しい着物など余裕が
なかっただろう

母のウールのアンサンブルをとい
びつくり
一枚の洋服地にはいった数本の直線
の切り込み
その当時流行したものか自分で考え
たのか
娘よりよほどモダンなセンスの母は
反物でない布地から作る着物や帯を
さ、やかに楽しんだのかもしれない

自分の手で和服を縫い
生活の中に和服があった時代を生き
てきた
今ではもう着物は着られない母

胸おどらせ ときながら
女たちの歴史を思う

金魚が動かなくなった
沈んでいた時何か訴えていたのか
それがふわりと浮かんで

五年生の孫に手伝わせて
水槽からすくって家の影の方へ埋めた
ピンクの立葵をちぎって丸く並べた

地域のまつりで求めた金魚
何匹かいたのに最後の一匹になり
水槽を大きく買い替えて何年か

ブタ金といわれる程大きくなって
ブクブク水音がして元気に泳ぐ姿に
やっぱり元気を貰っていたと思う

自分が思うように体が効かなくなる
などと
考えもしなかった なんかつい
なつて
立葵一本 亡き夫の仏壇へ持っていく

自分が思うように体が効かなくなる
などと
考えもしなかった なんかつい
なつて
立葵一本 亡き夫の仏壇へ持っていく

自分が思うように体が効かなくなる
などと
考えもしなかった なんかつい
なつて
立葵一本 亡き夫の仏壇へ持っていく

自分が思うように体が効かなくなる
などと
考えもしなかった なんかつい
なつて
立葵一本 亡き夫の仏壇へ持っていく

自分が思うように体が効かなくなる
などと
考えもしなかった なんかつい
なつて
立葵一本 亡き夫の仏壇へ持っていく

自分が思うように体が効かなくなる
などと
考えもしなかった なんかつい
なつて
立葵一本 亡き夫の仏壇へ持っていく

自分が思うように体が効かなくなる
などと
考えもしなかった なんかつい
なつて
立葵一本 亡き夫の仏壇へ持っていく

自分が思うように体が効かなくなる
などと
考えもしなかった なんかつい
なつて
立葵一本 亡き夫の仏壇へ持っていく

自分が思うように体が効かなくなる
などと
考えもしなかった なんかつい
なつて
立葵一本 亡き夫の仏壇へ持っていく

自分が思うように体が効かなくなる
などと
考えもしなかった なんかつい
なつて
立葵一本 亡き夫の仏壇へ持っていく

自分が思うように体が効かなくなる
などと
考えもしなかった なんかつい
なつて
立葵一本 亡き夫の仏壇へ持っていく

小中高生の部

【俳句の部】

◆佳作

天の川星の子どもを集めたよ

村上小学校三年 元島 珠希

◆入選

じどうかんわつたすいかがあーまいよ

坂城小学校二年 吉池 幸咲

夏野さい 青空の下かがやくよ

村上小学校三年 大橋 茉奈

ぼんおどり久しぶりだね友の顔

村上小学校五年 元島 理彩

【川柳の部】

◆奨励賞

宿題をやればやるほど親笑顔

南条小学校六年 三井 一紗

◆佳作

休み明け友だちこんな顔だっけ?

村上小学校五年 内川 恭孝

休みあけなれない学校苦手です

南条小学校六年 綾部 丈流

◆入選

参観日親の前では手をあげる

南条小学校六年 丸山 彩希

【現代詩の部】

◆佳作

タイトル無し

南条小学校六年 中沢 陽

何かがわたしを呼んでいる

あの厚いかべのおくで

何かはわたしを呼んでいる

それはあかるく

それはあたたかく

それはやさしく

何かはわたしを呼んでいる

そのとき

わたしの中の何かが開いた

わたしはぐんぐんのびていく

何かにぐんぐんのびていく

春がわたしを呼んでいる

世界がわたしを呼んでいる

◆入選

プール

坂城小学校二年 栗原 夢来

なみ ぎぶん ゆらゆら

スライダー じゃぼん

ながれる ヒュー

ながれる バシヤバシヤ

なみ ふわーふわー



第48回 元旦マラソン大会

毎年恒例の元旦マラソン大会が行われました。新年早々好天に恵まれ、昨年より多い484名が参加しました。入賞された方々を紹介します。

— 敬称略 —

〇6 km 一般の部 男子

- 1位 眞田 稜生(上田市)
- 2位 大塚 創太(込山)
- 3位 西澤 賢信(長野市)

〇1.5 km 小学生の部

- 1位 下鳥 舟平 (村上小3年)
- 2位 大井 廣明 (村上小4年)
- 3位 近藤 海 (称津小4年)

〇6 km 一般の部 女子

- 1位 宮澤花奈実(松本市)
- 2位 齋藤 結花(上田市)
- 3位 鈴木 菜生(上田市)

〇6 km 小学生の部 男子

- 1位 丸山 直生(山形村)
- 2位 中垣 咲哉(広島県)
- 3位 田畑 亮介(上田市)

〇6 km 小学生の部 女子

- 1位 北原 和(上田市)
- 2位 菊地 遥奈(東御市)
- 3位 田畑 香奈(上田市)

〇3 km 一般の部

- 1位 喜多 真大(東京都)
- 2位 岡松 希星(上平)
- 3位 飯島千太郎(長野市)

〇3 km 小学生の部

- 1位 平林 篤 (村上小5年)
- 2位 塚田駿之介 (村上小6年)
- 3位 石田 嵩明 (村上小6年)



※ペアにつきましては、順位がありません。

第52回 坂城町席書大会・書初展

第52回席書大会・書初展を、1月4日～6日に開催しました。席書大会では、約70人が参加し、書初めをしました。書初展には、98作品が出品され、多くの皆さんに観覧していただきました。入賞された方々を紹介します。

— 敬称略 —

★坂城町長賞

- 南条小5年 三井 恒輝

★町教育長賞

- 村上小6年 塚田駿之介

★町書道協会会長賞

- 坂城小6年 水出 琉惟

★中学生の部金賞

- 坂城中1年 三井 悠靖
- 3年 齋藤ひかる

◆金賞

- 南条保育園 中島 里菜
- 坂城幼稚園 石倉 由麻
- 坂城小2年 大井 翔平
- 坂城小2年 千野 依
- 南条小2年 三井 陽登
- 南条小2年 三井 恒輝
- 南条小5年 宮下 莉子
- 南条小5年 柳沢 真生
- 高 校 小出 悦
- 一 般 北條 久善
- はに しな 寮 田ノ上 友子

◆銀賞

- 坂城小2年 宮沢 紗世
- 坂城小4年 林 美咲
- 坂城小5年 西澤 早絵
- 坂城小6年 安藤 理沙
- 南条小1年 鈴木 悠友
- 南条小6年 池田 早良
- 南条小3年 岩戸 真一
- 南条小4年 片山 夏美
- 南条小5年 田中 鈴莉
- 南条小5年 三井飛裕人
- 南条小6年 塚田暁乃進
- 村上小2年 山城 彩
- 村上小6年 米田 愛祈
- 坂城中1年 辻出 小遥
- 坂城中1年 水出 藍
- 坂城中1年 柳澤 郁子

◆銅賞

- 坂城小1年 成澤 凛
- 坂城小3年 成澤 葵
- 坂城小4年 玉井 里奈
- 坂城小4年 水出 琉珂
- 坂城小5年 小出 久遠
- 坂城小5年 本藤 真宏
- 坂城小5年 佐藤 遥珂
- 坂城小5年 宮沢 華奈
- 坂城小5年 小林 聖



- 南条小1年 中島 結太
- 南条小2年 片山 太一
- 南条小3年 小宮山 瑛太
- 南条小3年 前沢 武洋
- 南条小3年 中島 凜音
- 南条小4年 塚田 真心
- 南条小4年 山岸 果穂
- 南条小5年 中島 真希
- 南条小5年 樋口 碧
- 南条小6年 大井 煉明
- 坂城中1年 山城 穂華
- 坂城中1年 柳澤 光樹
- 坂城中1年 齋藤 なつき
- 坂城中1年 山岸 柚菜
- 坂城中2年 玉井 遥斗
- 坂城中3年 重倉 嶺
- 坂城中3年 塚田 ころこ
- 坂城中3年 栗原 夏来
- 坂城中3年 鈴木 悠里
- 坂城中3年 宮嶋 香穂
- 坂城中3年 増田 千恵
- 坂城中3年 池田 彩月
- 坂城中3年 池田 智子

分館対抗球技大会

二月二十四日(日)、分館対抗球技大会(スマイルボウリング)を開催しました。

27分館71チームの参加がありました。運動不足になりがちな冬の健康づくりと、世代間交流を目的として開催していますが、参加者の年代も幅広く、10歳から92歳まで約490人が楽しくプレイしました。



平成30年度 第32回分館対抗球技大会 ブロック別優勝チーム

ブロック	優勝チーム
アブロック	日名沢 A
Bブロック	立町 C
Cブロック	北日名 A
Dブロック	町横尾 A
Eブロック	御所沢 C
Fブロック	田町 C
Gブロック	旭ヶ丘 A
Hブロック	泉 A
Iブロック	入横尾 A
Jブロック	四ツ屋 B
Kブロック	南日名 A
Lブロック	旭ヶ丘 B
Mブロック	上平 A
Nブロック	横町 C
Oブロック	込山 A
Pブロック	成久保 C
Qブロック	月見 B
Rブロック	中之条 A
Sブロック	中之条 B
Tブロック	込山 C

子ども

茶の湯教室

三月二日(土)、文化の館で「子ども茶の湯教室」を開催しました。

公民館文化講座茶道(裏千家)教室の協力で行い、21名の参加があり、茶道の作法を通して、礼義、立ち居振る舞いなどを学びました。
「お茶」と「お菓子」とてもおいしかったです。



さかきふれあい大学講座

500字リレートーク

地元で社会人になつて〜出会い

山城 和史

私は平成二十七年四月に就職して、地元坂城で社会人となりました。その際の縁や家人の勧めもあり消防団に入りました。仕事も不慣れで、夜勤もあり、最初は活動に参加することもなかなかできませんでした。が、団に入ったことにより、地域で頑張る先輩方と出会うことができました。時間も取れず自分に何ができのうか迷うこともありましたが、今できることをするだけと思いついて参加しています。

また自家の水田で米作りも始めました。知らないことばかりでしたが、農業機械の操作方法から親身に教えて下さる方に恵まれ、自家米を食べることができるようになりました。祖父の残した二条植えの機械での初めての田植えは、泥に足を取られ大変でした。新しいことも始めました

が、それまで続けてきたことも大事にしています。それは小学校四年から始めた剣道です。社会人になって小・中学生に教える立場になりましたが、学生時代の様には自分の稽古ができません。指導する自分が拙いのは嫌なので、時間があれば上田市などにも稽古に出かけています。声をかけて下さる方のお陰で大学の稽古会に参加させて頂くこともありました。稽古や試合を続ける中で、少しずつ知人も増え、剣道だけでなく様々なことを教えていただいています。

貴重な出会いの経験を活かし、地に足の着いた社会人になりたいと思います。次は月見区の宮原理沙さんです。



4月からの講座参加者募集



坂城町公民館文化講座

平成31年度文化講座の受講生を募集します。複数の講座の受講もできます。初心者を対象としていますので、ぜひお申し込みください。

俳句	短歌	茶道(表千家)	茶道(裏千家)	木彫	書道	コーラス	陶芸	古文書	絵画	盆栽	NEW 植物散策
----	----	---------	---------	----	----	------	----	-----	----	----	----------

申込期日 4月1日(月)午後1時30分から
4月15日(月)まで
※年度途中からの受講も受け付けます。

申込場所 文化センター内、坂城町公民館(2階)
※申込書は、公民館にあります。

受講料 1人1講座につき受講料3,000円

開講式 4月16日(火)午後7時00分～
文化センター大会議室
※講座の進め方などの打ち合わせを行いますので、必ず出席してください。

その他 講座の詳細は「まなびの玉手箱」をご覧ください。

問い合わせ先 電話 82-2069 (町公民館)



成人式実行委員募集中!

今年の8月15日(木)に予定している成人式ですが、実行委員になっていただける人を募集しています。興味のある人は公民館事務局まで連絡してください。
該当：平成10年4月2日から平成11年4月1日生まれの方です。

リトミック教室

音楽(リズム)を用いて人間形成に欠かせない「社会性」、「創造性」、「感受性」を育てる楽しい講座です。保護者と子どもで参加してください。

申込開始期日 4月8日(月)から開始
5月8日～2月21日 毎週水曜日(年間40回)
午前10時～11時30分

会場 文化センター **指導者** 中沢敏江さん

対象 1歳半～3歳児とその保護者

受講料 8,000円 **定員** 20組



キッズスポーツ教室

軽運動や楽しいゲームなどで基礎的な身体づくり、コミュニケーションづくりをする講座です。

申込開始期日 4月8日(月)から開始
5月8日～3月4日 毎週水曜日(年間30回)
午後4時30分～5時30分

会場 文化センター体育館

指導者 長野体育指導センター指導員

対象 4・5歳児

受講料 15,000円 **定員** 30名



生活改善で葬儀、婚儀をする場合の案内状に同封する通知文は文化センターにあります。ご利用ください。

葬儀・・・香典1,000円、法事3,000円 香典返しは半返し以内で。花輪は辞退しましょう。近親者はこの限りではありません。
婚儀・・・祝儀(会費)3,000円 引き出物、記念品を出さない。近親者はこの限りではありません。

館説 かいぜ

一月六日の朝、NHK総合テレビで、「目撃!」

につぼん「星に願いを」
天文学者・鳴沢真也「
という番組が放送されて
いました。兵庫県の西は
りま天文台のガイドをし
ている天文学者の鳴沢真
也さんとその天文台に集
まる人々のドキュメンタ
リー番組でした。

鳴沢さんは、十代のと
きに六年間ひきこもり
の生活を送り、ハレー彗
星と出会って生き方が変
わり、努力して三十代で
天文学者になったそう
です。その鳴沢さんが、集
まった人たちに「星はそ
れぞれに個性があり、み
んなちがってみんない
い」と語ります。

教えられ、父親の思いに
心を寄せる鳴沢さんの亡
き同僚の子どもなど、そ
れぞれのひたむきな生き
方がありました。

私も星を見るのは好き
なので、この番組内容に
思わず引き込まれてしま
いました。さまざまな色
を放つ無限の美しい星と
鳴沢さんのガイドの集い
によって、自分の人生を
見つめ直す人々の生き方
が素敵でした。

さて、町公民館の活動
は、一年を終えようとし
ています。公民館の各種
講座も受講生の皆様が好
きな活動によって専門性
や教養を高めるだけでな
く、この番組のようにそ
こに集った皆様が感動を
共有したり交流したりす
ることによって、自分を
見つめ直したり新たな自
分を発見したりというこ
ともあったのではないで
しょうか。新年度もそん
な文化講座になるよう努
力していきたいと思いま
す。

そして、そこに集まっ
ている人々には、星の観
察会に参加するうち、う
つ病を克服し夫婦の絆を
取り戻した人、大学への
進学をあきらめ天文学者
になる夢は断たれたけれ
ど、鳴沢さんに背を押さ
れ星と関わりながら生き
る道を考える若者、父親
の名前が付けられた小惑
星の位置を鳴沢さんから

また、本館や分館の活
動にご尽力いただきました
地区の役員の皆様や参
加していただいた皆様に
感謝申し上げます。新年
度もよろしくお願いた
します。